



令和5年度(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

# CSW 活動報告書



C こまったときの S そうだんは W わたしたちへ

社会福祉法人  
所沢市社会福祉協議会



# 目 次

■はじめに .....	1
■コミュニティソーシャルワーカー(CSW)とは .....	2
■CSW 活動報告	
I 相談集計 .....	4
II CSW スナップ集 .....	6
III 地域支援活動	
(1)こども支援活動 .....	8
(2)災害に対する取り組み .....	10
(3)他社協との情報交換 .....	11
(4)地域福祉サポーター活動 .....	12
(5)広報活動 .....	13
IV 事例報告	
(事例 1)個別支援 .....	14
(事例 2)地域支援 .....	15
■終わりに .....	16
■ホームページ等一覧 .....	17

## ■はじめに

日頃より、本会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。このたび、令和5年度のCSW活動報告書を作成いたしましたので、ここにご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが感染症法上5類に移行し、地域福祉の在り方が問われる1年となりました。このような状況で、本会は、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指し、地域の皆さまと様々な取り組みを推進してまいりました。

近年、少子高齢化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化等、私たちを取り巻く地域社会は大きく変化しています。こうした中で地域福祉の重要性は、ますます高まっています。コミュニティソーシャルワーカー(CSW)はこれらの課題に向き合い、地域を基盤として活動し、地域の中でいわゆる「制度の狭間」で困りごとを抱える人を発見し支援するとともに寄り添いながら、地域の生活課題の解決に向け取り組んでいます。

本会では、平成28年から11行政区にCSWを配置し地域住民と協働して取り組む専門職として9年目を迎えました。

本報告書では、本会のCSWの活動をより市民・関係機関の皆さまにご理解をいただけるように、活動の詳細や成果を記載しております。皆さまにおかれましては、本報告書をご覧ください、CSWの活動へのご理解を深めていただくとともに、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



所沢市社会福祉協議会  
会長 本橋 栄三

### 令和6年度 CSW



私たちが  
**CSW**  
です！

### CSW チラシ

#### こんな困り事は

**CSW** (コミュニティ・ソーシャル・ワーカー) **にご相談ください！**

- 誰かと喋りたい
- 地域のために何かしてみたい！
- 不安な気持ちを相談したい
- 地域で繋がりが欲しい
- 引越して来て、ひとりで暮らしたい
- みんなが住める場所をつくりたい
- CSWと地域の人と一緒に行きたい
- 人とつながりたい
- 家に居ても繋がりが取れない
- 子どもが通える居場所を知りたい
- 地域の人と交流したい
- 何かの相談すればいいのかな？
- どこかの窓口で相談したい方がいいかな？

#### 相談方法は

- 電話・訪問
- メール・来所
- HPはこちら

#### CSWって？(コミュニティソーシャルワーカー)

暮らしや地域の困り事を地域の方々や関係機関とともに協力して、解決に向け取り組めます。

所沢市社会福祉協議会 地域福祉推進課				〒350-0185 所沢市東町1861-1		TEL: 04-2925-0041	070-3876-0227
所沢市こどもと福祉の未来館3F				MAIL: 0041m@toko-shakyo.or.jp			
新所沢地区	新所沢東地区	松井地区	高岡地区	小手指地区			
070-3876-0228	070-3876-0229	070-2173-0221	070-3876-0222	070-3876-0223			
山口地区	吾妻地区	柳瀬地区	所沢地区	堂木地区			
070-3876-0224	070-3876-0225	070-3876-0226	070-3876-0230	070-3876-0231			

## ■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは

市内11行政区ごとに担当のCSWを配置し、地域に出向き複合的な生活課題を抱えた個人や家族に対して必要なサービスや専門機関へのつなぎ等、包括的な相談支援を行います。また、個々の困りごとを地域の課題として捉え、地域住民や多様な関係機関等と連携を図り、こども食堂の立ち上げや多世代交流の場づくりを行いながら、誰もが暮らしやすい地域づくりに取り組みます。

### CSW の主な役割

#### ●地域に出向き困りごとの発見・把握

CSW が地域に出向き、ちょっとした困りごとやどこに相談したら良いかわからないといった相談に応じます。また地域で開催される会議や集まりに参加し、地域の課題やニーズの把握に努めています。

##### 【困りごとの発見・把握の場の例】

- ・まちづくり協議会・地区社協との連携・協働
- ・地域ケア会議への参加
- ・住民懇談会等、福祉情報交換会の開催
- ・各地区の身近な相談窓口の設置 等



#### ●関係機関や地域の居場所と連携・つなぐ支援

一人ひとりの困りごとやニーズに応じて、福祉の相談窓口や地域包括支援センター等の専門機関や地域の居場所につなぐ支援をします。

##### 【CSW がつなぐ関係機関や地域の居場所の例】

- ・相談窓口に関すること（行政の専門窓口、地域包括支援センター等）
- ・こどもの居場所に関すること（こども食堂、学習支援、フードパントリー等）
- ・交流・居場所に関すること（サロン活動、茶話会、百歳体操、会食、農園等）
- ・助け合い活動に関すること（家事援助、庭木の手入れ、話し相手等） 等



## ●個別の困りごとを地域で解決する仕組み作り

個別の困りごとから見えてくる、地域の課題やニーズを共有し、解決に向けた話し合いや取り組みを進めていけるよう地域住民の皆さんと共に活動していきます。

### 【生活上の様々な困りごとの例】

- ・長い間自宅にひきこもっていて、一步を踏み出せない
- ・多くの問題を抱え、どこに相談していいのかわからない
- ・生活に困窮し精神的にも疲弊している
- ・介護(若い世代による介護負担含む)や育児によるストレス、虐待 等



## CSW の実践体制

CSW は実践力の向上を図るため、チームで活動しています。

### ●圏域会議／週1回

市内行政区を中央・西部・東部圏域ごとにユニットを組み、各地区での支援の進捗や地域の状況等を共有し連携体制を構築します。

### ●CSW 会議／週1回

CSW が担う様々な業務について、より良い支援の仕組みづくりに向けてともに協議し事業を推進します。

### ●CSW 事例検討会／月1回

解決困難なケースを共有し、互いに対応方法の提案や、意見を交換する中で学識経験者から助言をもらいながら支援の方針を協議します。



圏域会議



CSW 会議



CSW 事例検討会

# ■CSW 活動報告

## I 相談集計

令和5年度に、CSWが対応した相談件数、相談対象者、相談者種別及び相談内容等を集計したものです。

【相談支援世帯数】(単位:件)

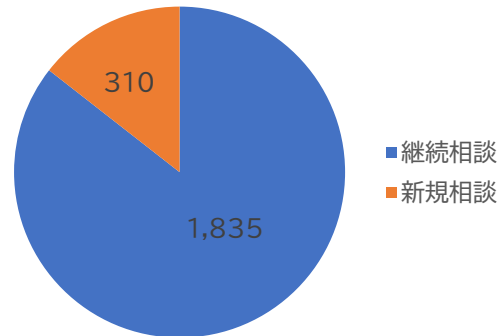
	令和5年度
継続支援	95
傾聴・見守り支援	655
合計	750

令和5年度は支援プロセスの見直しや、相談者が抱えている問題を適正に把握するための研修を行いました。

対象者種別では「制度利用なし」が最も多く、どこにもつながっていない方の相談の入り口となっています。

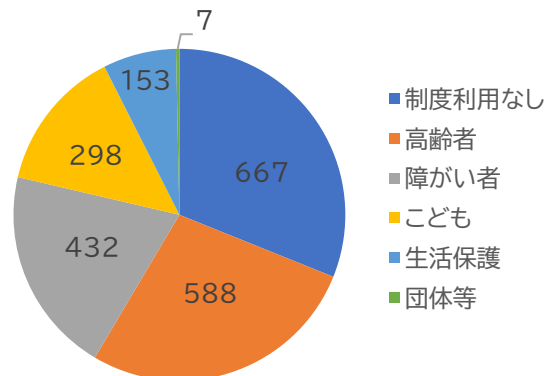
【相談対応件数】(単位:件)

	延べ件数
新規相談	310
継続相談	1,835
合計	2,145



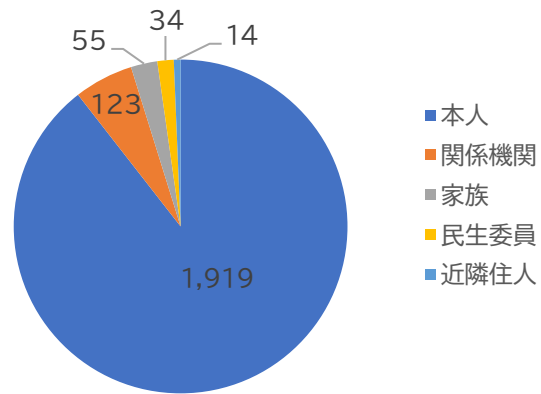
【対象者種別】(単位:件)

	延べ件数	構成比
制度利用なし	667	31.1%
高齢者	588	27.5%
障がい者	432	20.1%
子ども	298	13.9%
生活保護	153	7.1%
団体等	7	0.3%
合計	2,145	100.0%



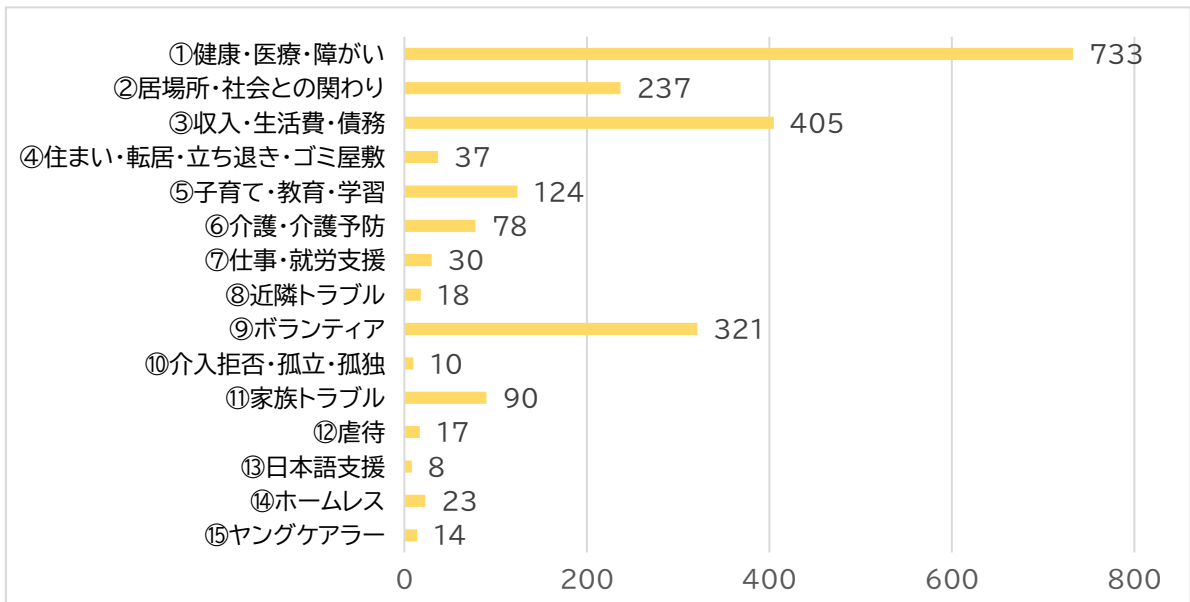
【相談者種別】(単位:件)

	令和5年度	
	延べ件数	構成比
本人	1,919	89.4%
関係機関	123	5.7%
家族	55	2.6%
民生委員	34	1.6%
近隣住人	14	0.7%
合計	2,145	100.0%



【相談内容】(単位:件)

※合計(延べ件数)2,145 件

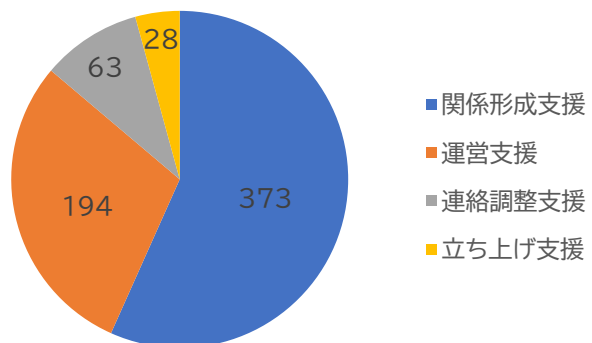


ひきこもり支援やこの数年間のコロナ禍の影響により「①健康・医療・障がい」「②居場所・社会との関わり」「③収入・生活費・債務」が上位になっています。

一方で令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となり、地域福祉活動が徐々に再開されたことにより、「⑨ボランティア」相談も上位になっています。

【地域支援件数】(単位:件)

	令和5年度
関係形成支援	373
運営支援	194
連絡調整支援	63
立ち上げ支援	28
合計	658



### 地域に出向き困りごとの発見・把握

各地区での相談会の実施や地域の会議  
に出席し、個別の相談に対応しています。

把握した個別の困りごとを地域の課題  
として捉え、地域で解決できる仕組みづ  
くりにつなげます。



地域福祉活動推進会議



所沢市自治連合会との懇談



地域に出向いた相談会

### 関係機関や地域の居場所と連携・ つなぐ支援

困りごとやニーズに応じて、専門機関  
や地域で活動するボランティア団体等  
につなぐ支援をしています。

またサロン等を行う団体の活動に参加  
し、地域住民との顔の見える関係づく  
りを心がけています。



地域のフードパントリー団体との連携



サロン活動への参加



夏のボランティア体験



## 個別の困りごとを地域で解決する 仕組みづくり

把握した地域課題やニーズを共有する場を作り、新たな担い手の発掘や、福祉に関する情報を広げます。

また解決に向けた話し合いや、取り組みを進めていけるよう地域住民の皆さんとともに活動します。



赤い羽根共同募金の街頭募金活動



情報格差解消に向けたスマホ教室



地域参加のきっかけづくりを目的とした講演会



地域の方と協働した小・中学校でののふくし学習



認知症啓発「オレンジガーデニングプロジェクト」



災害ボランティアセンター実地訓練



地域福祉サポーター養成講座

### Ⅲ 地域支援活動

#### (1) こども支援活動

こども支援活動として CSW が、こどもの居場所の立ち上げ支援から、活動に対する助成金の支援、活動を支援したい企業等とのつなぎ役となりました。また各関係機関と連携し、必要な世帯と団体をつなぐ支援も行いました。

市内のこどもの居場所実施団体の横のつながりづくりも行いました。

#### こどもの未来×リユース×ブックオフ「キモチと。」 ～キモチとどける。プロジェクト～



令和5年7月より、本会とブックオフ「キモチと。」にて古本等による寄付の新しい取り組みを開始しました。回収された古本等は、買取金額がこどもを支援する活動に活用されます。

令和5年度は、220,779円の実績となりました。また、古本等は新たに必要とされる人の元へと届けられる仕組みとなっています。



▲詳しくはこちら

#### こどもの居場所情報交換会



令和5年10月、こども食堂や学習支援等、こどもの居場所に携わる方や、団体の立上げを検討している方を対象に、活動発表や情報交換を行う「こどもの居場所情報交換会」を開催しました。

19団体31名、個人17名の計48名の参加がありました。地域で必要な「第3の居場所」の拡充や実施団体同士のネットワークづくりの一助となりました。

## Ⅲ 地域支援活動

### (1) こども支援活動

#### 歳末応援子育てフードパントリー



食支援を入り口としたひとり親家庭への支援として延べ46世帯へ支援を行いました。食品は、「所沢市こども未来基金」及び「共同募金配分金」の活用に合わせて、本会からの呼びかけに賛同いただいた4つの企業と10の福祉団体、市内3箇所の学校や個人の方々から、食料品等の提供をいただきました。地域福祉サポーターをはじめ、団体の方々から当日配布のボランティアにもご協力いただきました。

#### 地元農家との連携



地元農家の皆さまの協力により、ひとり親家庭を対象とするフードパントリー事業のために沢山の農作物等をご提供いただきました。

また、所沢市作成の広報紙「農委だよりところざわ」及び市民農園掲示板にも掲載したことで、直後に6件の寄付をいただきました。現在も市内各地からご協力をいただいています。



#### 福祉活動への寄付受入



令和5年は地域福祉活動が徐々に再開されました。そのような中、企業や福祉団体等から、こどもの居場所へ食料品や文房具の寄付が多数寄せられました。物品等は CSW がこどもの居場所を運営している各団体等を通じてこどもたちへ届けられました。

### Ⅲ 地域支援活動

#### (2)災害に対する取り組み

大規模災害を想定し令和5年度も様々な取り組みを実施しました。災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの改定や災害義援金等、また市民スタッフをはじめとする地域住民の力を活かした復興活動ができるように努めました。

#### 市民スタッフの会運営支援



災害ボランティアセンターの運営補助のため、市民スタッフが登録されています。市民スタッフ同士の連携を円滑に行うため、交流の場として市民スタッフの会が立ち上げられました。令和5年度には4回開催され、延べ45名が参加しました。CSWは勉強会や災害支援の情報共有等の側面的な支援をし、市民スタッフが主体的に運営できるよう支援しました。

#### 災害ボランティア活動



「災害ボランティアセンター設置・運営 マニュアル」を改訂し、実行性が高まりました。

また、大規模災害により甚大な被害が発生した際に、被災された方々を支援することを目的に災害義援金の募集を呼びかけています。特に令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、多くの方にご協力を頂きました。

～義援金実績～

令和6年能登半島地震災害義援金 377,604 円

令和5年 6・7月大雨災害義援金(佐賀県) 346 円

## Ⅲ 地域支援活動

### (3) 他社協との情報交換

豊島区民社協をはじめ様々な市町村社協との情報交換等を実施しました。CSW 活動や様々な事業での新たな発見へとつながりました。

#### 豊島区民社協 CSW 研修



令和5年10月に5日間、豊島区民社協と本会職員の相互交流を通じ、コミュニティソーシャルワーク業務について、職員の識見を養成することを目的に研修を実施しました。豊島区民社協の「CSW の拠点での取り組み」や「実践体制」について学ぶことができ、今後のCSW業務として、ユニット会議の検討や情報発信について学ぶことができました。

#### 他社協との情報交換

八王子市社協へのCSWについてのヒアリング、日野市社協へのスマホ教室・スマホサロンについての情報交換、立川市社協との夏のボランティア活動についての情報交換を行いました。

他社協の活動を参考にしつつ、本会での取り組みに活かしていきます。



### Ⅲ 地域支援活動

#### (4)地域福祉サポーター活動

地域福祉サポーターは、身近な地域で起きている問題等に”気づき”CSWへのつなぎ役であると同時に、問題の解決に向けて一緒に取り組みながら、自ら助け合いの地域づくりに参画する地域の支援者として175名が登録しています。各地区のサポーターとの連絡会を行うことでCSWと連携し、一丸となって誰もが暮らしやすい地域づくりを目指しています。

#### 地域福祉サポーター勉強会・連絡会



地域福祉サポーターとして地域課題に対して気づく力を養い、普段の助け合いの地域づくり活動へつなげるため、地域福祉サポーターが主体となり、年3回の勉強会、12回の連絡会を実施しました。

(勉強会例)

- ・地域包括支援センターって？
- ・ボッチャ体験
- ・フレイル予防教室 等



#### 地域福祉サポーター交流会

市内全域の地域福祉サポーターの交流を深めることを目的に、地域福祉サポーターと共に交流会を開催しました。

5年ぶりの開催となり、普段の活動の情報共有や悩みごとの共有を行う事で、地区を超えた交流ができました。

CSWは地域福祉サポーターの活動を側面的に支援しています。



### Ⅲ 地域支援活動

#### (5) 広報活動



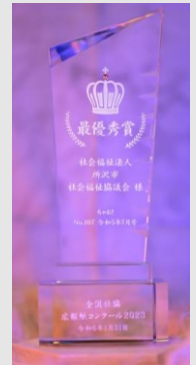
▲各種広報誌はこちらから

#### Ciao!(ちゃお!)

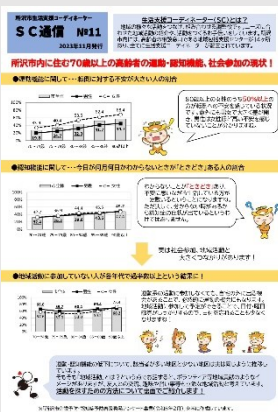


地域福祉の情報発信として、会報誌を4回発行しました。

令和5年7月に発行した「ちゃお! 107号」は、全国社協広報紙コンクール2023にてエントリーのあった53社協の中から、栄えある「最優秀賞」を受賞しました! より多くの市民に情報を届けるため、新規 11 箇所の市内幼稚園や病院等に配架をしました。



#### SC 通信



生活支援体制整備事業の情報発信をするため SC通信を2回発行しました。生活支援コーディネーター(SC)の紹介、スマホサポーター養成講座&スマホ教室、トコまっぴ等について掲載し周知に努めました。

#### VC だより



所沢社協ボランティアセンター(VC)では「VCだより」を3回発行しました。ボランティアに関する情報や市内で活動するボランティア団体の紹介等を掲載し、広く市民に周知しました。

#### Youtube・LINE



地域の中でつながりを絶やさずに暮らしていく為に、YouTube と LINE を活用した情報配信を行いました。YouTube では、総再生回数約1万7千回を超え、各情報配信サービス総計で2,793名に友達追加をしていたが、ボランティアに関する情報や、地域のイベントを発信しました。



## IV 事例報告

### (事例1) 個別支援

#### 閉じこもりがちな本人を地域と共に支える支援

##### ? きっかけ

60代男性のAさんは母と弟の3人で暮らしていましたが、母が認知症のため施設入所と同時に成年後見制度を利用することになりました。Aさん兄弟は近隣住民も40年近く姿を見ていないひきこもりの状態でした。生活の収入源は母親の年金であったため、母親に成年後見人等がついた段階で本人たちの使えるお金がなくなることが予想されました。

##### ☀️ CSWの対応

Aさん兄弟に対して定期的に様子を確認していましたが、次第に携帯料金の滞納により連絡が取れなくなっていました。そこで警察・消防に協力を要請し安否確認をした結果、家にいた兄弟と直接話すことができました。兄弟からは「放っておいてくれ」と関わりに拒否的な対応でした。

しかし金銭面・ライフラインが停止しており、生命に危険が生じる状況が考えられたため、Aさんと対話ができるよう手紙や連絡ノートを届けました。はじめは反応がありませんでしたが、徐々に返答が来るようになり、訪問から3ヶ月後にAさんがドアを開けてくれて、「お金がない」「水がほしい」等の困りごとを話してくれるようになりました。



実際の連絡ノート

##### 👤 支援内容

###### ①食事面

「所沢市あったかサポートセンター」※1と連携し、緊急小口資金の利用による水の購入と、フードドライブを利用できるようサポートしました。



###### ②金銭面

水道、電気は滞納により止まっていたため、「あんしんセーフティネット」※2を活用し、滞納分の一部を支払ってもらう手続きをサポートしました。また今後の生活を支えるために生活保護を申請することになりました。

###### ③生活面

自宅内の清潔保持が難しい状況があったため、本人とCSW、片付け業者とともに優先順位を決めて自宅内の片付けを進めました。



##### ✨ その後の展開

訪問から7ヶ月後に生活の立て直しができ、Aさんから「就労」という希望が出始めました。Aさんの希望を基に、ひきこもり支援を行う「あったかサポートリーチ！」※3が、今後の目標を確認し、フリースペースへの参加を促したことで、外出や他者と関わる機会を作ることができました。

Aさんから、「根気強く関わってくれたことで、頼っても良いと思うことができた。本当にありがとう。」という言葉聞くことができました。

※1所沢市あったかサポートセンター:失業などによる経済的な問題および家庭や健康上の問題で生活にお困りの方のための相談窓口。

※2あんしんセーフティネット:埼玉県内の社会福祉法人が協働して行う、社会貢献活動としての相談支援事業。利用可能な制度の紹介や支援機関への橋渡しを行うとともに、逼迫した状況にある場合には経済的援助(現物給付)を行い、生活困窮者の自立を支援する。

※3あったかサポートリーチ!:ひきこもりや就労準備支援に関する相談を受けている。



## IV 事例報告

### (事例 2) 地域支援

#### 誰でも参加できる地域の居場所の立ち上げ支援

#### ? きっかけ

50代女性のBさんは、母が亡くなり、経済的な課題や、将来の不安な気持ちを相談する相手がいない等、ずっと一人で孤独に悩まれていました。

CSW につながったきっかけは、地域に設置してあるふくし掲示板を見てCSW の存在を知り、電話をしたことで相談に至りました。



#### ☀️ CSW の対応

所沢市あったかサポートセンターと連携して、経済的な課題に対する支援を行いながら、Bさんが感じている孤立・孤独感に注目し、地域住民とつながる居場所の必要性を感じました。

そこで、CSW は以下の取り組みを行いました。

#### ① 地域生活課題の共有



地域福祉サポーター※1の定例会の場で、地域にはどんな課題があるか意見交換をしました。意見交換の中で、Bさんの他にも、この地域では孤立・孤独感を抱えている方が多くいることがわかりました。同様の相談がこれまでもあったことから、この地域には生活に悩みを抱える人が何でも話せる集いの場所が必要であると共有しました。

#### ② 課題への取り組み



賛同して立ち上がってくれた方々と一緒に、CSW が誰でも参加できる居場所づくりに向けた側面的支援を行いました。Bさんと出会ってから約10ヶ月後に誰もが集える地域の居場所「オアシス」が誕生しました。

その結果、オアシスに参加されたBさんは安心して過ごせる居場所を見つけ、さらに地域福祉サポーターとのつながりが加わりました。新たにつながりができたBさんは当初、緊張した様子でしたが、参加したサポーターが丁寧に話を聞くことで、最後には笑顔も見られるようになりました。

#### ✨ その後の展開

オアシスの立上げによりBさんが気軽に相談できる居場所ができた他、今後もBさんと同様に孤独で悩まれている方を、オアシスにつなげることによって予防や早期対応ができ、地域における支援の手立てが増えました。少しずつ活動の裾野も広がり、様々な方が気軽に参加できる地域の居場所となっています。



※1地域福祉サポーター:本報告書 p.12 参照

## ■終わりに

本報告書の作成にあたり【地域福祉活動計画 in 所沢】の策定にご尽力いただき、現在ではCSW事例検討会へ学識経験者としてご協力いただいている、田中英樹氏よりコメントをいただきました。

日本医療大学 通信教育部長  
早稲田大学名誉教授 東京通信大学名誉教授  
**田中 英樹 氏**



### 【略歴】

1972年、川崎市入職、佐賀大学、長崎ウエスレヤン大学  
早稲田大学、東京通信大学を経て

2023年4月から日本医療大学通信教育部(部長・教授)

### 【社会活動】

NPO 法人日本地域福祉研究所副理事長

日本精神保健福祉学会会長、

日本精神障害者リハビリテーション学会元会長

豊島区保健福祉審議会会長

私は、2007年度から所沢市社会福祉協議会に携わらせていただき、早や17年目を迎えています。「ところ WITH プラン(地域福祉活動計画)」の作成と進行管理を担う協議会の会長、本社協の理事や監事も経験し、昨年、札幌市に移住してからも本社協スタッフのスーパーバイザーを担当しています。

手元に届いた「CSW報告書」を改めて読みますと、コミュニティソーシャルワーカーを始めとした社協スタッフ皆さんの活動の足跡と成果や到達点が手に取るように分かります。私なりに、到達点を以下のように評価しています。①相談業務の中で、社会福祉士や精神保健福祉士という有資格の福祉専門職が大きく成長したこと。②地域福祉サポーターという地域福祉を推進する核となる市民が確実に育ってきたこと。③個別具体的な住民のニーズを出発に、必要な地域資源を関係者と手を組み一緒に開発してきたこと。④広報誌「ちゃお!」の普及、LINE や YouTube などの SNS を活用した情報提供や啓発活動、そしてこの年1回発行の「CSW 報告書」があります。

この報告書は、CSW の活動を振り返り、成果や課題をまとめ、関係者や市民の理解を更に広げ、実践を外化し、記録するものです。

今後もぜひ、CSW の皆さんが成功も失敗も実践から学び、普遍化し、更なる高みに成長することを願い、引き続き関係者と市民の皆さまの心温まるご声援をお願いするものです。



## ■ホームページ等一覧

本報告書に掲載されている内容について、本会HPにより詳細な内容が記載されています。本報告書と併せて是非ご確認ください。

### ★CSW について(CSW 報告書・CSW チラシ)

<http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/csw.html>



### ★こどもの未来×リユース×ブックオフ「キモチと。」～キモチとどける。プロジェクト～

<https://www.toko-shakyo.or.jp/support/donation/kimochi-project/>



### ★こども支援事業(居場所一覧、助成事業等)

<http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/kodomo.html>



### ★災害ボランティアのこと

<https://www.toko-shakyo.or.jp/volunteer/disaster-volunteer/>



### ★サポーターのこと(地域福祉サポーター・認知症サポーター)

<http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/supporter-area.html>



### ★所沢社協 広報誌(ちゃお！・VC だより・SC だより等)

<https://www.toko-shakyo.or.jp/kouhou/>



### ★所沢社協 情報配信サービス(Youtube・LINE・メール)

<https://www.toko-shakyo.or.jp/volunteer/notification/>



### ★車いすステーション

<http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/wheelchair.html>



## 社会福祉法人 所沢市社会福祉協議会

住 所:所沢市泉町 1861-1

所沢市こどもと福祉の未来館 3 階

電 話:04-2925-0041

FAX:04-2925-3419

メール:0041m@toko-shakyo.or.jp

ホームページ:<http://www.toko-shakyo.or.jp/>



\*CSW 報告書は共同募金の配分金を活用しています。

